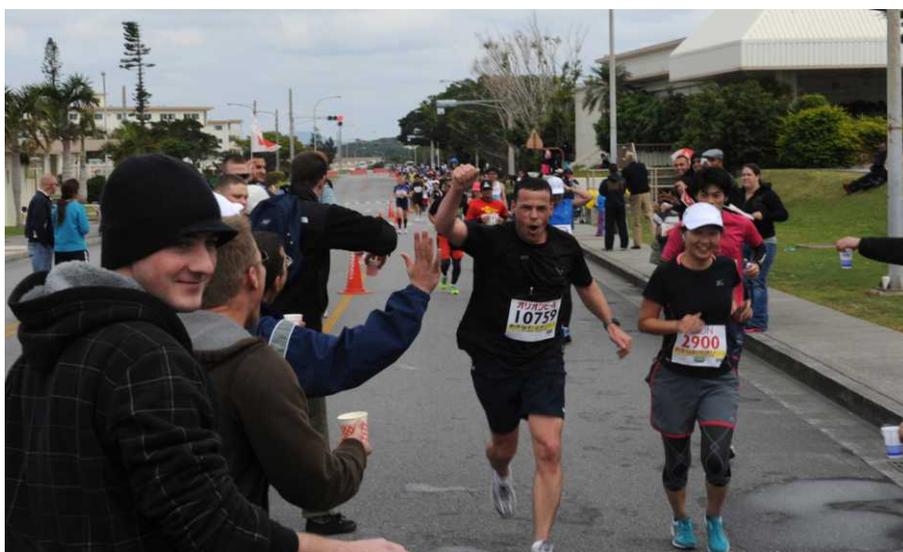


第20回おきなわマラソン

第18航空団広報局

第20回「2012おきなわマラソン」が2月19日に開催され、フルマラソンに出場した過去最多の1万1211人のランナーの内、1万人近くのランナーが、嘉手納基地内のコースおよそ2.8キロを走りぬけました。

基地内の沿道には、200人以上のボランティアがランナーを応援し、飲み水や果物を提供しました。家族連れも詰め掛け、ハンドベルを鳴らしたり、「ガンバレ」の文字が書かれた色紙を手にして声援を送りました。第2ゲート近くではアメリカ・エアハート小学校から、およそ20名の児童がエイサー太鼓を鳴らしてランナーを激励しました。多くの米軍人関係者も走るなか、第18航空団司令官のマシュー・モロイ准将と第18航空団副司令官のクリー・マーティン大佐の顔もみえました。二人とも3～4時間台で完走しました。沿道の応援がうれしかったこと、「また嘉手納基地のコースを特別なものにしてくれたボランティア全員に感謝したい。（嘉手納基地の第2）ゲートがみえたときには、気持ちが盛り上がりました」と、モロイ准将が走者の一人として感動と感謝を述べました。



20TH ANNUAL OKINAWA MARATHON 2012

(写真全て、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)

"Thank you to the Defenders writ large and to all the wonderful volunteers who made the Kadena Air Base marathon entry a special moment, you can't imagine how my spirits lifted as I breached the gate. Well done!"

— Brig. Gen. Matthew Molly



CONTENTS

PART I

第20回おきなわマラソン

日米エアフォース友好協会、2名の航空兵を表彰

嘉手納基地の空軍部隊、初のグアムでの航空機訓練移転に参加

“Okinawan First”

PART II

SpotLIGHT

沖縄市の専門学生、嘉手納基地で就業体験

嘉手納基地内学校情報あれこれ

基地内教育機関紹介



平成23年度JAAGA（日米エアフォース友好協会）表彰行事が2012年2月3日、那覇基地にて行われました。嘉手納基地第33救難中隊のベロニカ・コックス兵長と、那覇基地第83航空隊整備補給群検査隊の秋元明曹長がJAAGAより表彰され、賞状や記念の盾などが贈呈されました。コックス兵長は、トモダチ作戦における被災地での物資支援調整を通訳業務を兼ねて支援したことなどが評価され、今回の受賞となりました。秋元曹長は、那覇基地での在日米軍下士官部隊現地研修や、嘉手納基地で開催された空曹資質強化研修において、積極的に調整や企画を行い交流事業を推進したこと等が認められました。

現在、コックス兵長は長期派遣で不在のため、所属している第33救難中隊の司令官であるセントオンジュ中佐が代理出席しました。表彰式では、第83航空隊司令の山田真史空将補と第18航空団司令官のマシュー・モロイ准将より、祝辞が述べられました。



モロイ准将は「秋元曹長とコックス兵長の日米同盟への貢献を誇りに思います。任務に対するお二人の高い志とプロ意識に感謝します。お二人のこの姿勢が2つの偉大なる空軍の意義を明確に表しています。」と2名のエアマン(航空兵)を祝しました。コックス兵長からはビデオレターが届き、メッセージの中で受賞に対する感謝とトモダチ作戦での経験などを英語と流暢な日本語で伝えました。

例年、JAAGAは日米空軍の相互理解と友好親善に貢献し功績が認められた航空自衛隊員と空軍兵を表彰しています。



(指定以外の写真全て、航空自衛隊提供)



(写真全て、米空軍提供)

嘉手納基地の空軍部隊、初のグアムでの航空機訓練移転に参加

第18航空団広報局

グアムのアンダーセン空軍基地にて2月6日から3週間にわたり日米間で調整された航空機訓練移転が行われました。嘉手納基地から、主に第18運用群と第18整備群所属の空軍兵およそ500名とF-15戦闘機18機、E-3空中管制機2機、KC-135空中給油機2機が参加しました。

グアムでの航空機訓練移転の期間中、空軍兵らは遠征部隊としての運用訓練と航空自衛隊との合同訓練を行いました。また、嘉手納基地に残るF-15戦闘機の機数を減らすことにより、航空機運用による基地周辺地域への騒音の影響の軽減を図りました。

今回の航空機訓練移転は、3つの「初」がある点で特別だったといえます。まず、航空機訓練移転において今回の規模（参加人員及び航空機数及び派遣期間）で嘉手納基地空軍兵と航空機が基地を離れたのは初めてです。嘉手納基地の部隊が3週間にわたって航空機訓練移転を実施するのも初めてでしたし、嘉手納基地の部隊がグアムにて航空機訓練移転を行うことも今回が初めてでした。

今回の航空機訓練移転にあたり、第18運用群司令官であり今回の航空機訓練移転における米軍側の指揮官も務めているデービッド・ネイホム大佐は、「今回の訓練で、我々は遠征部隊としての運用訓練ができ、航空自衛隊の皆さんと共に訓練を行い、また日本防衛のために提供される我々の統合された能力を向上させる機会にもなる」と述べていました。



AVIATION TRAINING RELOCATION IN GUAM



COPE NORTH 2012 @ ANDERSEN AIR FORCE BASE, GUAM

“Okinawan First”

第18航空団広報局

第2回沖縄県内物販業者による米軍バイヤー向け商品展示商談会が2月3日沖縄市民会館中ホールで開催されました。これは（財）沖縄県産業振興公社主催、沖縄商工会議所、北谷町商工会、嘉手納町商工会、米国総領事館後援及び嘉手納基地第18



(米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)

契約中隊も協力団体として加わり開催されたものです。バイヤーとしての米軍側からみて、沖縄県内で調達できる物品にはどのような商品があるのかを知る良い機会となり、多くの関心を集めました。米軍は部隊で必要な物品購入のための（小口）現金はもたず、全てカード決済となっています。そのカードをGPC (Government Purchase Card)とよびます。契約中隊では、これまで地域の商工会などを対象とした説明会を数多く開催し、軍人が事務所備品を購入する際、卸店 小売店でGPCカードによる支払いができるよう、県内業者の理解を求める活動を推進してきました。

契約中隊創設20周年記念をして沖縄を訪れていた米国空軍副長官事務所取得部門からウエンディ・マシエロ少将も商談会会場訪れ、その様子を視察しました。「契約中隊の特別な記念を祝うと同時に、（地域との）関わりあいを奨励するという空軍の姿勢をみてとれ素晴らしいことだと思います。」と、述べました。



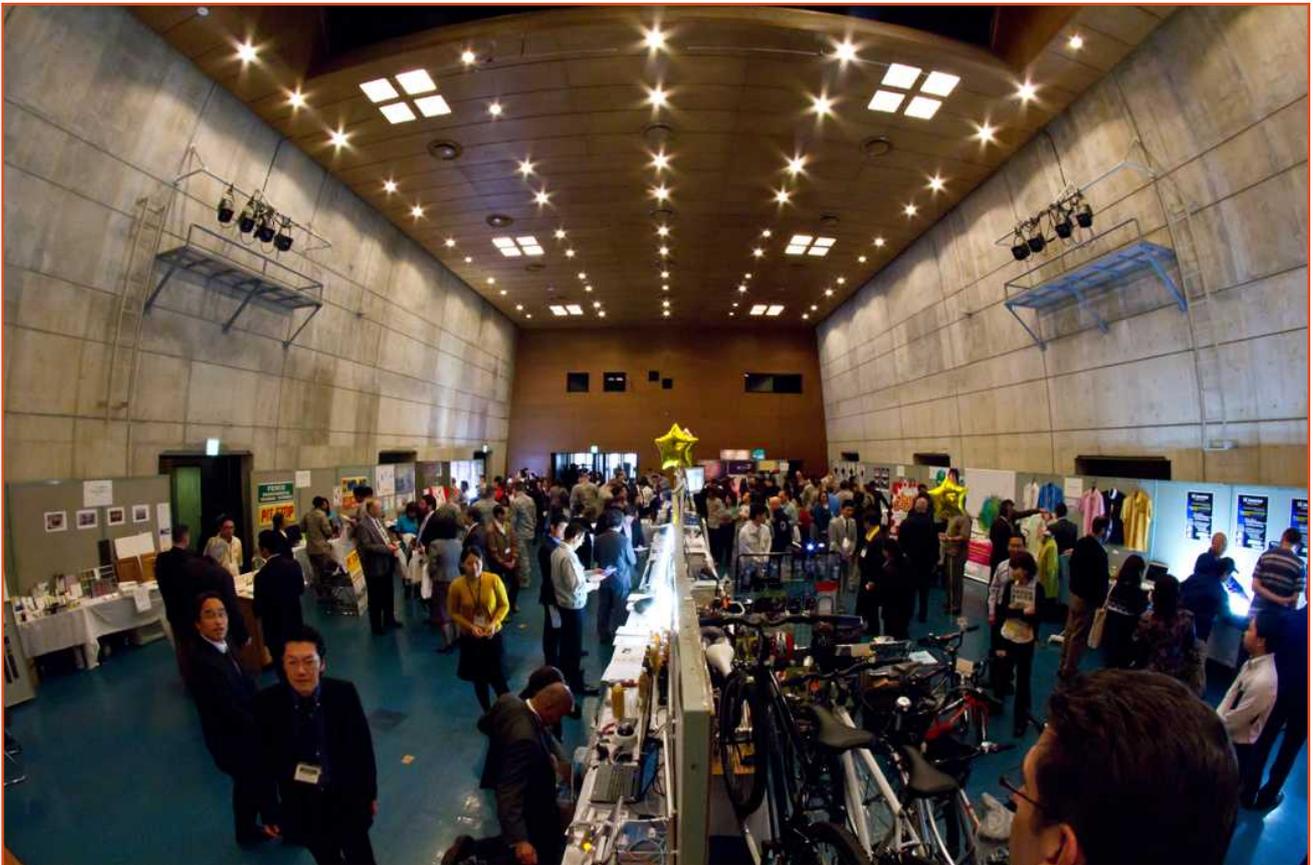
(米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)



(米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)



(米空軍：ジョージ・ヘリー兵長撮影)



(米空軍：ジョージ・ヘリー兵長撮影)